

廃プラスチック類の状況について

R P F 処理の廃プラスチック類に付きまして弊社は別紙の通りに価格改定を行い、平成 29 年 9 月 1 日～新料金で運用されていきます。これにつきましては急な価格改定により、数多くのお客様に対しましてご迷惑をお掛けした事をお詫び申し上げます。

R P F の現在の状況ですが入荷と出荷のバランスが悪く、処理能力マックスまでの受入れが今現在は非常に厳しくなっております。この状況を見ながらの操業をしていく事となっております。長いものや硬いものも受入れを禁止。且つ禁忌品（金属関係等）の混入が万が一あり、お客様が特定できた場合には、弁済をお願いさせていただくこととなりました。今後の操業は今まで以上にきっちりとした体制で対応させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

廃プラスチック類の中国問題に関しましては各情報誌や、お取引先様情報提供者様からの情報を元に抜粋引用させていただいております。平成 29 年 7 月 4 日中国国家環境省が固体廃棄物に対する違法行為を特別行動として検査を行った様子です。期間は 1 ヶ月。23 の省から約 1700 人を選出して 60 チームを編成しそれぞれ 10 人が 1 組となり検査した様子です。1 組は 1 日 1 工場の検査で 1729 の工場を検査する予定。今回の検査は、指定時間内に限なく検査が行なわれ事前通知なしで検査された様子です。問題のあった物は 3 日以内に立件され 1 週間以内に処罰が行なわれた様子です。北京環境省に報告されて処罰対象工場のライセンスは剥奪される予定の様子です。

情報によりますと、これが中国国策の固体廃棄物輸入に関する改革実施になります。実務実態としましては、雑プラは元より、ペットボトル、発泡スチロール等々金額も付かないように厳しくなってきておりまして、一気に受入れ禁止になってきております。尚且つ、廃プラスチック類で、日本国内で破碎及び洗浄されたような物や、インゴットに溶融したような物あたりでも中国では受入れ禁止になってきている様子です。古紙の輸出に關しても米国からの古紙の輸出荷止め、日本の古紙も風評被害で 9 月からは買取建値が約 4 円／1k g あたり一部下がります。鉄くずの家電雑品、工業雑品におきましては、弊社施設近辺では輸出は完全に止まりました。

廃プラスチック類がこの流れで全てこの先止まりますと、約 260 万 t の廃プラスチック類が日本国内で溢れる様子です。従って産業廃棄物処理になり処理費がかかってくる状況にあります。状況をご推察していただきまして、弊社の考え方のご理解をいただけます様どうぞよろしくお願い申し上げます。